

# 幅広い世代に利用される高速道路を目指して

## 1. 高速道路の利用者を増やすために

図 1 より、昨年（2020年）の新型コロナウイルス感染症の影響で、前年に比べて全国の主要な高速道路の交通量は全体的に減少している。また利用者層の現状として、20代までが全体の5%未満、30代を含めても全体の2割にも満たないことから、若い層が高速道路を利用する機会が比較的少ないと考えられる。次に、SA・PAに行くことを目的として外出したことがある人は全体の2割にも満たないことが判明している。

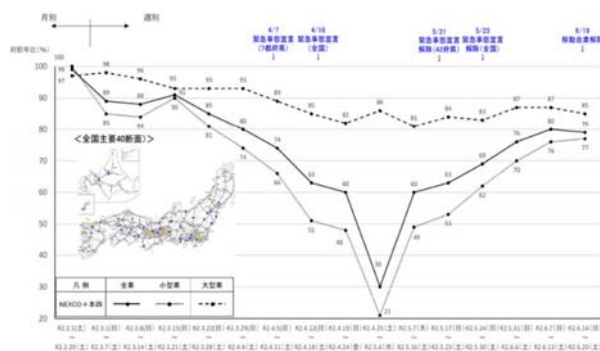


図 1 全国主要 40 断面の車種別交通量推移（2020 年）

そこで、最終目的を「高速道路の交通量の増加」として、より多くの人に高速道路を利用してもらうための方法を大きく 2 つに分けて考えた。1 つは「若年層の利用促進」である。普段、高速道路をあまり利用しない若者などが利用したくなるような高速道路を目指す必要があると考えた。具体的には若者を中心に頻りに利用されているスマートフォンのアプリを活用することを考えた。もう 1 つは、「利用目的の独自性・多様化」である。新規の利用者だけでなく既存の利用者にもより高速道路を利用してもらうために、高速道路において様々なターゲットに複数の用途を提供する必要がある。そこで、提供するサービスや技術の更なる向上を目指す必要があると考えた。

## 2. 目指すべき将来のビジョン

### (1) 快適・楽しさを生み出す高速道路のネットワークを広げる

スマートフォンのアプリを通して、既存の交通情報をさらに向上させることで安全・快適に高速道路を利用し、そこにポイントなどの利便性を含めることで利用者層を増やしていく。

#### ① アプリの機能拡充

航空機のマイルのような通行距離に応じたポイントが貯められるようにし、そのポイントは通行料金や SA などで利用できるようにする。

また、お客様 1 人 1 人に合わせたコンテンツを拡充させる。例えば、目的地を検索すると簡易的な観光ガイドが表示されるなどの機能を追加する。

そして、アプリを利用した通販でご当地品を買えるようにする。ここでは従来の通販のような、商品を検索して購入する形式ではなく、海外で取り入れられているバーチャルな商店街を参考にして、高速道路のマップ上に各 SA などのアイコンを表示してその場で買うことができる商品を掲載する。これにより実際に旅行気分で購入をしているかのような感覚で通販を楽しめるようにする。

#### ② 娯楽を通じた興味・関心の創出

SA・PA などのスポットでスタンプラリーを行い、スタンプの数に応じた景品をプレゼントする。景品の内容を高速道路や SA・PA をイメージしたすごろくやトランプ（図 2）などの限定品にすることにより、コロナ禍でもおうち時間を通して家族や友人と楽しめると同時に、高速道路をより知ってもらうことに繋がる。



図 2 フォトコンテストのトランプの例

次に、Instagram の活用である。高速道路から見たインスタ映えるスポットを場所ごとに作り、若者の興味を引き高速道路を利用してもらう。また、現在 NEXCO 西日本ではフォトコンテストが定期的に行われているが、これを Instagram のハッシュタグ投稿で行えるようにすることで、気軽にフォトコンテ

トに参加できるようにする。

このような娯楽を始めとした様々な方法で若者を含めたくさんの人々に高速道路の魅力を伝える。

## (2)高速道路の多機能化で新たな役割を獲得する

高速道路の観光地化やSA・PAの多機能化を通して、高速道路自体を目的地とする利用者の増加を図る。

### ①高速道路の観光地化

SAの延長として、自然溢れる山の近くを通っている高速道路の立地や特性を活かした、車の中から楽しめる動植物園や、アスレチックなどの自然共生型のアトラクション、交通の利便性を活かしたアウトレットの設置や運営を行うことで目的地となる場所を作り、より多くの人に高速道路を利用してもらう。それをスマートインターチェンジと複合させることで、高速道路を利用する人だけでなく、その地域の人も楽しむことができる。

### ②利用者に応じたSA・PAの多機能化

現在SA・PAは広大な敷地を有しており、一部のSAには長距離運転手のための仮眠室やシャワールームが設置されている。これに加えて学習や仕事のための個人・法人用スペースを作ることで、ビジネスマンの利用増進を図る。また、高速道路の利用者だけでなくSA・PA付近に住んでいる人も利用できるようなイベント・娯楽スペースを作ることで、SA・PAの利用目的を多様にする。さらに、これらは災害時のための避難所や簡易宿泊所としても利用することができる。このように幅広い機能を兼ね備えた多目的スペースを創設する。

## 3. まとめ

近年コロナ禍などにより高速道路の交通量が減少しているため、利用者のニーズに沿ったサービスを提供するなど、次世代に向けた高速道路を構築する必要がある。そこで上記のように、ソフト面を活用した「快適・楽しさを生み出す高速道路のネットワークを広げる」、そしてハード面での新たな利用方法を目指した「高速道路の多様化で新たな役割を獲得する」という2つのビジョンを目指すことで、高速道路の交通量の増加や幅広い世代の利用に繋がると考える。

## 参考文献

- ・新型コロナウイルス感染症対策に対応した高速道路施策の検討について、国土交通省  
<https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001351206.pdf>
- ・高速道路の顧客データ、NEXCO 西日本コミュニケーションズ  
<https://www.w-nexco-coms.co.jp/activity/advertising-media/data/>
- ・「サービスエリア・パーキングエリア」に関するアンケート調査、エアトリ  
<https://www.airtrip-intl.com/news/2019/2895/>
- ・【全国】サービスエリア・パーキングエリア44選！ドライブの前にチェック！、じゃらんニュース  
<https://www.jalan.net/news/article/174235/2>
- ・バーチャルな商店街をつくれるECサービスがイギリスなどでスタート、まち座  
<https://book.gakugei-pub.co.jp/e-commerce-high-streets-streetify/>
- ・フォトコンテスト、NEXCO 西日本 [https://www.w-nexco.co.jp/drive\\_porter/photo\\_contest/](https://www.w-nexco.co.jp/drive_porter/photo_contest/)
- ・高速道路ベストショット部門、NEXCO 西日本  
[https://www.w-nexco.co.jp/drive\\_porter/photo\\_contest/contest18/](https://www.w-nexco.co.jp/drive_porter/photo_contest/contest18/)